

## 第4章

### 教育委員会意見聴取会

	事務事業名	ページ
1	間々田公民館 家庭教育学級 ふれあい子育て楽級	P100
2	生井公民館 ラムサール講座	P103
3	豊田ふれあいコンサート	P106
4	市民文化祭事業	P109

## 「意見聴取会」における評価・意見

基本情報	事務事業名	間々田公民館 家庭教育学級 ふれあい子育て楽級		
	担当課	間々田公民館	担当係	業務係
	事務事業評価シート No.	15	報告書掲載ページ	62・63

「事務事業評価シート」中の項目に関わる評価の視点			委員の評価【四択】		左記の評価理由
			評価区分	評価委員数	
2. Do -実施-	手段	<19>「令和4年度の活動内容」の適否	適切	2人	○子育て中の保護者を支援する事業は様々あるが、その中でも家庭教育学級は長い歴史を持っている。従来5回であった講座を6回に増やして保護者の期待に応えようとする意欲と努力を評価したい。 ○地区の資源を生かし車屋美術館見学を取り入れ、保護者に地区を知る機会を設定したのは目的にかなっていて適切である。
			概ね適切	1人	○若者向けの内容をより充実させることで、幅広い層の参加が望めると考えられます。
	成果	<21>「事業・業務の成果」内容の適否	適切	1人	○各回ごとに参加者を募るのは丁寧な対応である。参加者数にばらつきがあるのはやむを得ない事であり、託児希望者がなくてもその準備はあった方がよいと思う。参加者の満足度が高いのは何よりである。
			概ね適切	2人	○事業目的により対応した内容を記載頂くとよろしいかと存じます。 ○参加者の満足度が高いことは評価できるが、参加者数を増やしていくために、社会状況の変化に対応した工夫が必要と思われる。希望はなかったが、託児を設けて

					いることはより多くの参加者を増やすために必要で今後も続けていただきたい。
		<p>&lt;22&gt; 「成果指標（活動の成果の量や実績）の設定の適否</p>	適切	1人	<p>○令和3年度に比べ参加人数を倍増しても達成率が上がっており満足度も高い。この事業が保護者の要望に応え成果を上げているといえるだろう。</p>
			概ね適切	2人	<p>○「仲間作りを目指す」ことが事業目的であるため、「講座の満足度」よりも「知り合いが増えた」などの項目のほうがさらに妥当と思われます。</p> <p>○指標において、参加人数だけでなく満足度を入れている点は評価に活かせるが、実人数より延人数の方が成果が分かりやすいのではないだろうか。</p>
3. Check -評価-		<p>&lt;33&gt; 「総合評価（事業全体の改善の余地）」の内容の適否</p>	適切	3人	<p>○現状と改善点に言及されています。</p> <p>○この事業の大きな目的が「仲間づくり」でありそのためには参加者同士の交流の場が無くてはならない。参加者はリピーターも新規の方もいた方がよい。講座内容の企画が大きなポイントであろう。</p> <p>○本事業について適切な評価と思われる。</p>
4. Action -改善-		<p>&lt;34&gt; 「事業の課題、事業の改善点、今後の進め方」の内容の適否</p>	適切	2人	<p>○適切な内容と存じます。</p> <p>○評価の通り、間々田・乙女地区の小学生の人数からすると、参加者を増やしたい。</p>
			概ね適切	1人	<p>○受講生にはリピーターは大切だが100%リピーターでは閉鎖的な集団になりかねない。新しい参加者の発掘にも努力を続けてほしい。</p>

総合意見等

○子育て中の方が対象ということで、比較的若年層が本事業の対象と思われます。そのため、募集方法を FAX ではなく、メールやLINE など、若年層が慣れ親しんでいる方法に変えることで、より多くの参加者が集まり、事業目的である「仲間作り」に資すると思われます。

○子どもたちが健やかに育つことは誰もが望むことである。しかし、わが国の現状を見れば厳しい環境に置かれている子どもたちが少なくない。子どもは社会全体で育てられるべきであり、社会はもっと子育てに関わるべきである。予算も人材ももっと子どもたちのためにつぎ込まなければならない。また、少子化が大きな問題となっているが、国連事務次長の中満泉氏は「少子化問題は社会の構造的な問題の帰結であって、根本的な問題に対応しなければ、断片的な対策では解決しない」としている。日本社会の根本的な問題の一つは「ジェンダー不平等」だという。家庭教育学級という地道な活動の中にもそういう視点があってもよいのではないか。

○小学校の保護者を対象とした家庭教育学級を年間を通して長年実施しているのは、意義のあることだ。参加者を増やすために、募集を中学校保護者にも広げるなど改善の努力が認められる。社会環境等の状況が変化し、共働きやひとり親家庭が増えている。誰もが参加しやすい開催日、必要とされる講座内容の工夫を行い、保護者を応援する公民館の講座を今後も続けていただきたい。小学生保護者世代を対象と考えると、デジタルを活用した募集を考えてもよいのではないか。

## 「意見聴取会」における評価・意見

基本情報	事務事業名	生井公民館 ラムサール講座		
	担当課	生井公民館	担当係	—
	事務事業評価シート No.	16	報告書 掲載ページ	96・97

「事務事業評価シート」中の 項目に関わる評価の視点			委員の評価【四択】		左記の評価理由
			評価区分	評価 委員数	
2. Do -実施-	手 段	<19>「令和4年度の活動内容」の適否	適切	3人	<p>○目的と合致していると思われます。</p> <p>○渡良瀬遊水地の豊かな自然はいつ訪れても、何回訪れても応えてくれるものがあるので、年間5回の自然観察会は充実したものとなっているであろう。内容も春と秋の植物と昆虫、冬の鳥類とバランスが取れている。</p> <p>○生井地区の地理的資源を生かした事業であり、適切である。</p>
	成 果	<21>「事業・業務の成果」内容の適否	適切	2人	<p>○遊水地特有の事情から参加者を12名に限定せざるを得ないのはやむを得ないと思う反面少ないと感じる。希望が叶わなかった人のことを考えると募集方法に何か工夫はできないものだろうか。</p> <p>○普段立ち入り出来ない所で、専門家の解説を受けて観察会という特色ある事業で成果を得られている。</p>
				概ね適切	1人

		<22>「成果指標 (活動の成果の量 や実績)の 設定の適否	概ね適切	3人	<p>○現在の開催方法では妥当な結果と思われます。</p> <p>○参加者数の誤差はやむを得ないことであるが、貴重な欠席者の枠を補充出来ないものだろうか。募集の際に欠員補充候補者を決めておくなど改善の余地はあるのではないか。</p> <p>○参加者へのアンケートによる指標も考えると内容がより豊かになっていくのではないかな。</p>
3. Check -評価-		<33>「総合評価(事業全体の改善の余地)」の内容の適否	適切	2人	<p>○幅広い市民からの参加希望があることは何よりである。実施回数を増やしたり年間を通した定点観察など新しい試みにも期待が持てる。公民館のアイデアや行動力に今後も期待したい。</p> <p>○幅広い市民層が参加できている現状をさらに充実させる方法を考えている。</p>
			概ね適切	1人	<p>○聴取会において、参加者の大半が高齢者に偏っているということでしたので、その点を加味した内容になっているとさらによろしいかと存じます。</p>
4. Action -改善-		<34>「事業の課題、事業の改善点、今後の進め方」の内容の適否	適切	2人	<p>○この事業は大変学問的な内容の講座であるから、講師としての専門家の招聘は講座準備の要であろう。参加者の期待に応える大きなポイントでもある。</p> <p>○事業を実施する上での現状を踏まえた上で、より充実した事業への改善が考えられている。</p>
			概ね適切	1人	<p>○現在の開催方法と参加者層を前提とした内容となっており、事業目的である「多くの市民の環境保護に対する啓発を図る」とは十分に合致していないと思われます。</p>

総合意見等

○渡良瀬遊水地はコウノトリも生息する貴重な湿地であるだけでなく、重要な観光資源でもあります。そのため、「低い環境負荷」で「若年層を含めた多様な市民」の参加を募るために、現在の開催方式に加えて、以下の3点を提案致します。

1. オンライン受付の実施：電話やFAXでの受付だけでは若年層の参加が見込みにくいため。

2. サイクルツーリズムの導入：渡良瀬遊水地周辺ではサイクリングの普及にも力を入れており、環境負荷の低い自転車による移動を追加することで、参加人数の増加に対応可能。

3. ネイチャーガイドの養成：参加人数の増加に対応するために、専門家だけではなく、地元の方を中心にネイチャーガイドを養成。

○渡良瀬遊水地は豊かな自然の宝庫であり、小山市や近隣市町はもとより我が国の大きな財産である。この財産を守っていくためには、より多くの方々に遊水地を知ってもらい理解を深めてもらうことが大切である。ここ数年、コウノトリとともに遊水地への注目度も上がっているが、こうした講座を通して遊水地の歴史や民俗、景観等も含めた総合的な理解が深まり、この貴重な財産を守り後世に残していこうという意識が遊水地を取り巻く地域全体に醸成されることを期待している。将来にわたって遊水地の賢明な利用が検討されていくことと思われるが、観光地化されるようなことは望ましくない。

○屋外で実施するために、事前の安全確保、天候等、配慮することが多い事業と思われるが、渡良瀬遊水地への理解、環境保護への啓発にとって有効な事業だと思う。そのためにも、若年層も参加できるような会の実施、デジタルを活用した広報活動を考えてもよいのではないか。

## 「意見聴取会」における評価・意見

基本情報	事務事業名	豊田ふれあいコンサート		
	担当課	豊田公民館	担当係	業務係
	事務事業評価シート No.	18	報告書 掲載ページ	80・81

「事務事業評価シート」中の項目に関わる評価の視点			委員の評価【四択】		左記の評価理由
			評価区分	評価委員数	
2. Do -実施-	手段	<19>「令和4年度の活動内容」の適否	適切	3人	<p>○目的と合致していると思われます。</p> <p>○良く準備された活動が計画的に行われていることが窺える。出演者の検討と出演依頼が大きなウエイトを占めると思われるが、これまでの実績が活かされているのであろう。</p> <p>○計画に沿った事業内容で適切である。</p>
	成果	<21>「事業・業務の成果」内容の適否	適切	3人	<p>○目的と合致していると思われます。</p> <p>○「生の音楽に触れる」ということをコンセプトにこの事業は計画され、その熱い思いは職員の異動等があっても受け継がれてきた。それが地域住民にも理解されこの事業の成功につながっていると思われる。</p> <p>○生の演奏会が地域住民にとって身近なものとなっていて、適切である。</p>
		<22>「成果指標（活動の成果の量や実績）の設定の適否	適切	1人	<p>○参加人数とアンケートによって行なっていて、適切である。達成率も高い。</p>



			概ね適切	2人	<p>○アンケート回収数ではなく、そのアンケートにおける項目の値を成果指標としたほうがより妥当と思われま。</p> <p>○来場者数、アンケート回収数ともに良好である。アンケートの形式がよくわからないが、応える側からすれば記入する質問内容、時間、依頼の仕方など微妙なことも影響するのではないか。</p>
3. Check -評価-	<33> 「総合評価（事業全体の改善の余地）」の内容の適否		適切	3人	<p>○高齢化傾向という現状分析も行われており、妥当と思われま。</p> <p>○新型コロナは各方面に大きな影響を与えているが、安全対策をとりながら開催できたことは何よりである。来場者も「待ってました」という気持ちではなかったか。満足度が高いのも頷ける。幅広い年代への働きかけが今後の課題であろうか。</p> <p>○成果と改善点を把握し、評価されていて適切である。</p>
4. Action -改善-	<34> 「事業の課題、事業の改善点、今後の進め方」の内容の適否		適切	3人	<p>○概ね適切と思われま。</p> <p>○音楽に限らず生きた芸術に触れることは人としての基本的な欲求であり喜びである。そこに貢献する地道な活動は大変貴重であり、是非とも今後も継続して開催していただきたい。</p> <p>○社会状況が変化し、若い世代においては、公民館活動が以前のような身近さがなくなっている。演奏会により老若男女を集客することで、幅広い年代の音楽、小山市、公民館への親しみを喚起できると期待する。</p>

総合意見等

○「小山に縁のあるアーティスト」の「生の演奏を聴く」ことが目的の事業としますと、市民文化祭と連携して実施することで、より大きな成果が得られると思われれます。また若年層への周知として、チラシの配布だけではなくSNS などオンライン上での情報発信も積極的に行うのもよろしいかと存じます。

○世界には様々な音楽があふれており、人それぞれに音楽を楽しんでいる。我々の生活に音楽は欠かせないものであるが、生の音楽に触れる機会はそう多くはない。また、生の音楽は一般的に高価である。大きなホールでのオーケストラも素晴らしいが、公民館の一室で聴く音楽も味わい深いものがあるはずだ。一公民館が高い理想と使命感をもって地域住民に生の演奏を長年提供しているこの事業を心から賞賛したい。音楽は形には残らないが心には残る。これからも心豊かなひと時を大切にしていってほしい。

○身近な場所で気軽に生演奏を聴く機会を積み重ねてきた、地域住民に浸透した事業であると思う。小山市ゆかりのアーティストを選定し、出演の依頼交渉等、運営側の事前の努力がうかがわれる。学校との協力をさらに進めると、幅広い年代の参加も考えられるのではないだろうか。なお、若年層を考えるとデジタルを活用した広報活動が必要ではないだろうか。

## 「意見聴取会」における評価・意見

基本情報	事務事業名	市民文化祭事業		
	担当課	文化振興課	担当係	文化振興係
	事務事業評価シート No.	23	報告書 掲載ページ	78・79

「事務事業評価シート」中の 項目に関わる評価の視点			委員の評価【四択】		左記の評価理由
			評価区分	評価 委員数	
2. Do -実施-	手 段	<19>「令和4年度の活動内容」の適否	適切	3人	<p>○目的に合致していると思われます。</p> <p>○市民に芸術活動の発表の機会と場を提供するというこの事業の意義は大変大きい。全市を挙げて小学生から高齢者までが参加し、それぞれの分野での成果を発表、表現できる良い機会である。</p> <p>○コロナ禍の影響を受け、3年振りに実施する中で、妥当である。</p>
	成 果	<21>「事業・業務の成果」内容の適否	適切	3人	<p>○適切と思われます。</p> <p>○新型コロナによる中断があり再開には多くの課題があったと思われるが、関係者の熱意と努力により市民の文化芸術発表の機会が確保されたことは大きな成果である。</p> <p>○コロナ禍の影響が残っているため、参加者数が少ないのは致し方ないと思う。</p>
		<22>「成果指標（活動の成果の量や実績）の設定の適否	適切	1人	○適切と思われます。
			概ね適切	2人	<p>○来場者数や実施部門数の達成率は新型コロナの状況を考えればやむを得ないと思われるが、その他に要因として考えられるものがあるのだろうか。</p> <p>○来場者数と実施部門数を成果指標としているが、実施部門数を出演・出品者数にしてもよいのではないか。</p>

3. Check -評価-	<33> 「総合評価（事業全体の改善の余地）」の内容の適否	適切	2人	○現状について、適切に評価されています。 ○コロナ禍の中、感染対策を行いながらの実施は通常とは違ったご苦労があったことだろう。
		概ね適切	1人	○開催期間も長く関係者も各方面にわたる事業ゆえの難しさがあることと思われる。今後通常開催に向けて、周知方法、参加要請、運営方法など改善しながらこの事業をさらに充実したものにしていきたい。
4. Action -改善-	<34> 「事業の課題、事業の改善点、今後の進め方」の内容の適否	適切	1人	○妥当な内容となっております。
		概ね適切	2人	○この事業には各文化団体の協力が不可欠であるが、市と各文化団体との緊密な連携を期待したい。また、市内の高校や大学にも参加を呼び掛けても良いのではないだろうか。 ○文化祭の運営を担う文化団体の人数減少、高齢化の傾向がある中での取組を考えていく必要もあるのではないかと。
総合意見等		<p>○市民にとって貴重な機会であり、さらに維持・発展させることが望まれます。たとえば、小中学校で実施されている文化祭や合唱コンクールを市民文化祭と関連付けることで、より規模が大きくなり、児童・生徒たちが他の文化に触れる機会の創出にもなるかと思われます。</p> <p>○「市民一人一芸術」という高い目標を掲げ、その実現のための一つの手立てとして本事業が継続して開催されてきたことの意義は大きい。出品者、発表者はもとより観客としての参加者もこの事業の大切なメンバーである。年に一度の大きな催しとともに日頃の文化芸術活動の充実も文化振興には欠かせない。市内各所で様々な文化活動が日常的に行われ、豊かな文化の創造につながっていくことを期待したい。</p> <p>○学校部門については、児童生徒が努力した成果を外部に向けて発表するよい機会となっていて、心身の成長に寄与がある。学校の多忙化を考えた運営も考えていく必要があるように思う。文化芸術に親しむ市民にとって、大きな会場で発表する機会となり、市民文化祭は意味深い。市内文化団体による展示会や発表会等においては、若手も参加しやすい方法も考えていただけると参加者が増えるのではないだろうか。</p>		